

耳を澄ませば心地よい
おんがくが聞こえる

松戸市がどうして「音楽のまち」となったのか、音楽を通してこのまちに育まれてきたものは何なのか。音楽を愛し続ける3人が語り合う、音楽の魅力と、この先に向けての想いとは。

八嶋▽松戸が「音楽のまち」って言われるようになったのは、やはり部活動が盛んなことがきっかけでしょうか。

須藤 たしかに、部活動が盛んで結果も出しているの、そこから音楽のまちと言われ始めたのかなと思います。ですが、学校以外でも、松戸市音楽協会の加盟団体もかなりありますし、多彩な音楽活動が盛んに行われていますよね。それにホールなどの設備も充実していて、商業施設や自治体も演奏の場を与えてくださっています。そういうところも、松戸が音楽のまちと言われる理由だと思います。

アサノ▼僕は小学5年の時にクラシックギターを習い始めました。でもバンド活動で知り合った他のギタリストに聞くと、クラシックから入った人っていないんですよ。クラシックギターが習える環境ってあまり無かったのかもしれませんか。あとは、ピアノの先生も

ひとつのマンションにひとりはいた気がします（笑）。今思えば、昔から音楽が身近にあつて始めやすい環境が整っていたんだと思います。

ハ嶋△松戸は楽器屋さんもすぐぐがんばっていますよね。ギターを始める若い人たちに懇切丁寧に対応してくれたり、吹奏楽の楽器のメンテナンスもやってくれたり、気さくで自由な気風があるから、音楽を始める時のハードルが低いのかも知れません。

須藤▼松戸が他の地域と違うなと感じるのは、みんなであうまくなろう、みんなでもっと楽しく音楽をやろうっていう雰囲気があることだと思います。学校が連携して一緒に練習することもありますし、小中高のジョイントコンサートも実現しました。松戸は、どうしても音楽活動が盛んで吹奏楽も強いんですか？

「仲が良くてよく聞かれますが、いつも私は」

いからだと思っています」と答えています。

八嶋▼それはありますね。アマチュアの音楽団体も序列がつくという感じはなく、合同演奏会もあります。楽団員には松戸市外から来ている方もいるんですが、松戸に来れば音楽に接することができると思っている方が増えていると肌で感じます。松戸は昔宿場町だったからでしょうか、新しい文化に非常に寛容なという特長もありますよね。

アサノ▼その寛容ってところに繋がるんですけど、過去に2回参加させてもらった松戸音楽フェスティバル「MATSUON!!」で、吹奏楽や合唱がある中に、僕らのようなロックバンドが混ぜてもらえるのがすごいな
って思います。あと、僕らのバンドは「自由に楽しんでほしい」をコンセプトにしているので、みんな思い思いのスタイルで楽しんでくればいいと思っていますんですが、松戸はすでにそれが成立しているんですよ。ご年配の方も手を叩いてくださっている姿がステージの上から見えて、すごく嬉しかったです。僕らのバンドには目標が2つあって、まずひとつが武道館でライブをやること。そしてもうひとつは松戸でフェスを主催することなんです。僕は今まで各地のフェスに参加してきましたが、森のホール21周辺はフェスをするのに抜群の環境だと思っています。

八嶋：松戸の真ん中にある森のホール21は、立地も施設のレベルも中心的な存在ですね。それとは別に、1週間ごとに場所を変えて音楽イベントを開催するとか、日々の暮らしの中に音楽が出てくる機会があってもいいと思うんです。「松戸音楽アワード」なん

ていうのはどうでしょう。

須藤▼そういうアウトリーチの事業を起こすのもいいですね。あとバンドのコンテストはどうですか？軽音楽をやっている子も結構多いので、やる気にも繋がると 생각합니다。アサノさんに審査員として来てもらえますし(笑)。

アサノ▼そうですね。軽音楽という部分から松戸の音楽を盛り上げていきたいなあ。あと、小さな子どもが何かが表現することに寛容であってほしいと思います。夜までギターを練習しても許されていた昔のように、大人があたたかく見守る環境もつくっていきたいです。

八嶋▼いいですね。松戸は子育てしやすいまちとして知られていますが、そこに“音楽”が加わっていくことで、さらに子どもたちの豊かな成長に繋がっていくそうですね。

須藤 私は常に「音楽は人に喜んでもらうためにするんだよ。音楽は人間にしかない心の表現なんだよ」と子どもたちに伝え、音楽を通して「人を思いやることの大切さ」を教えています。これだけ音楽に触れる環境が整っているからこそ、子どもたちが楽器に触れる機会を諦めさせたくありません。

八嶋 感情の抑揚がそのまま出てくるのが音楽だと思うんです。その感情を演奏者と聴く人が共有できるってすごいことですよね。“感情の共有”それが音楽の魅力ではないでしょうか。

アサノ▼今Aーがすごく発達してきて、さまざまな分野に使われていますが、音楽だけは、絶対に人がやっていかなければいけないもの、だと考えています。“音楽には人が出る”そこが魅力だと僕は思っています。

